



タカアシガニ

全長3mまで成長することがある。静岡県の駿河湾などでもよく見られる。(日本近海、全長3m)



地球のナゾを解明 地球深部探査船「ちきゅう」

「しんかい6500」のベースキャンプ 支援母船「よこすか」

「しんかい6500」を載せて目的の海底まで伸び、潜水調査を助ける。全長26mもある「しんかい6500」を収める広い船庫や、吊り下げる海にいるクレーンをもち、海中の「しんかい6500」の乗組員と話す水中通話装置を備えている。(全長9.7m、幅2.8m、高さ4.1m)

△△△
三角形の
大きさヒ



ソディカ

三角形の大きなひれを使って泳ぐ。国立科学博物館の篠原博士がダイオウイカのビデオ撮影に成功した時は、ソディカをおどりに使って勝ち出した。(世界の深海、全長1.5m)

△△△
チヨー高価な
「美貝」



リュウグウオキナエビス

美しい丸い形と鮮やかな朱色のしま模様が特徴的。その珍しさから、過去には数百万円で売り買ったこともあれば。(日本近海など、高さ25cm)

アカチョウチンクラゲ

底面の入り口にかかるちょうどくらいた。ウミゴモやヨコエビなど小さな生きものがくっついていることが多い。ほかの生きものの住み家としての役割を果たす。深海では、生きもの同士が「住む場所」を分け合って生きている。(世界の深海・北極海など世界中の海、大きさ7cm)



オオグチボヤ

ホヤの仲間。人間の口のように見える大きく開く穴から海水を吸い込み、運びてきたプランクトンなどを食べる。小エビを丸のみすることもあり、肉食と栄養食である。(日本近海など、高さ25cm)

ミツクリザメ

頭の前に長い伸びた舌のような鼻先が特徴だ。英語では「Goblin Shark=悪魔ザメ」と呼ばれている。裏面で魚に食らはれていたる深海ザメはこのミツクリザメ。(太平洋、インド洋、大西洋、全長3m)

背びれが1枚の「古代ザメ」

カグラザメ

サメの多くは2枚の背びれと5対のえらぎを持つのに対し、カグラザメは1枚の背びれと6対のえらぎがある。(世界の深海・熱帯海など、全長4.8m)

毎~いお鼻の「悪鬼」



ダイオウイカvs マッコウクジラ

深海を半周する二つの巨大生物の戦いは古のから海の伝説として、語り継がれてきた。これまでにもダイオウイカの歯の跡が多數ついたとみられるマッコウクジラの姿がたくさん目撃されており、世界中のテレビ局がこの伝説の「マッコウ勝負」を、映像に収めようとしている。

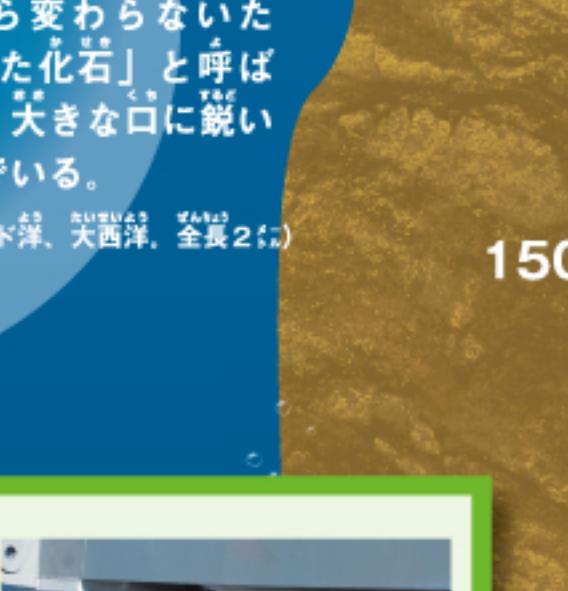
究極の眼力! 自は生物最大25セン

ダイオウイカの触脚はなんと直径25cm。バスケットボールと同じ大きさで、すべての生物の中で最も大きい。より多くの光を集め、暗闇の深海でも獲物や天敵を見つけられるようになっていると考えられている。

シギウナギ

そり立った長いくちばしのような口が特徴。海中に潜るエビの長い触角を、からめ取って食べると見えられている。好奇心が旺盛なのか、ゆっくりと潜航する潜水艇についてくることもある。(世界中の深海・熱帯海など、全長約14m)

海底の“温泉”にすんでいる



ユノハナガニ

海水が地中のマグマにふれ、熱水となって海底から噴き出す場所の近くにすんでいる。温泉でどれも「湯の花」にちなんで名づけられた。光がほどんど届かない深海にすむため、体は白く、自己は退化している。(伊豆・小笠原諸島など、全長約6cm)



ゴエモンコシオリエビ

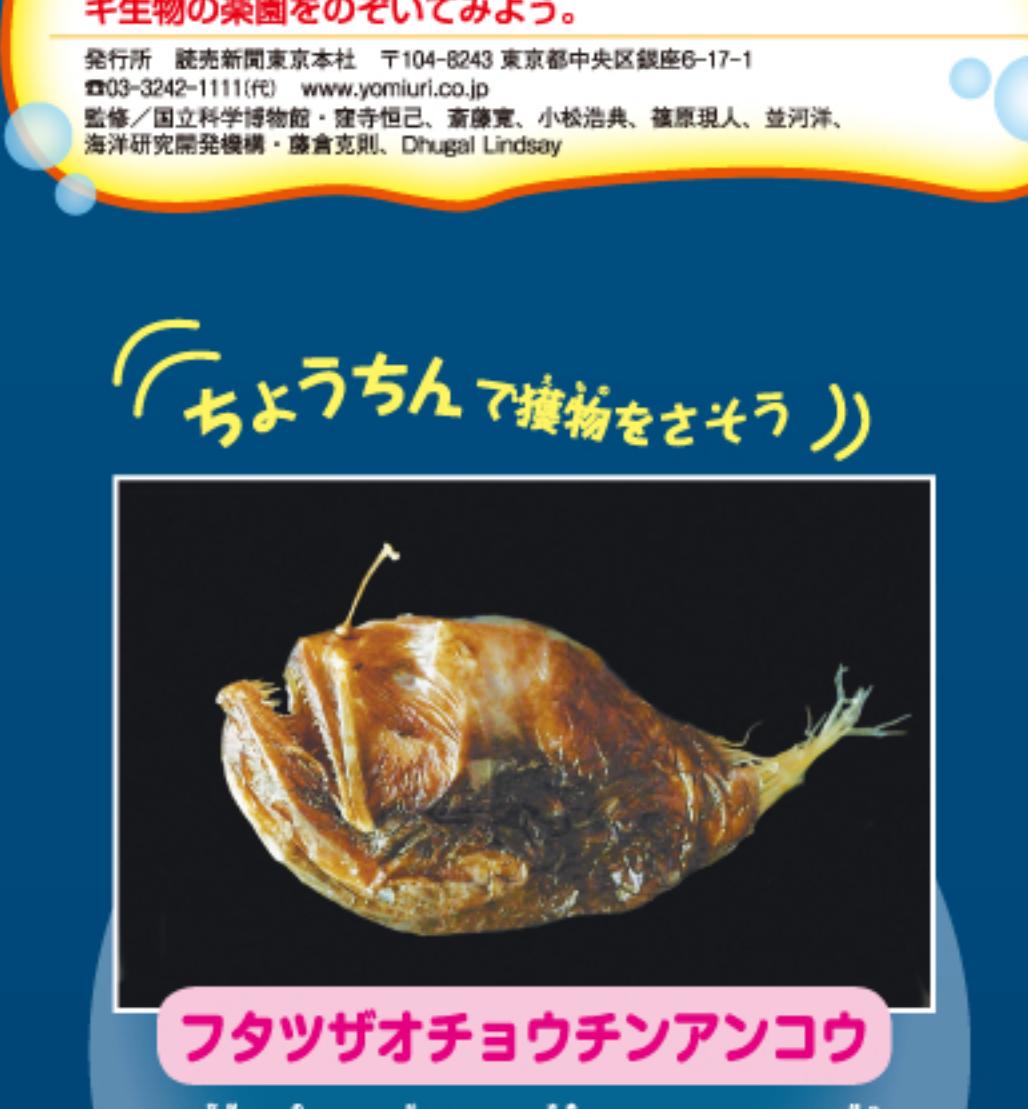
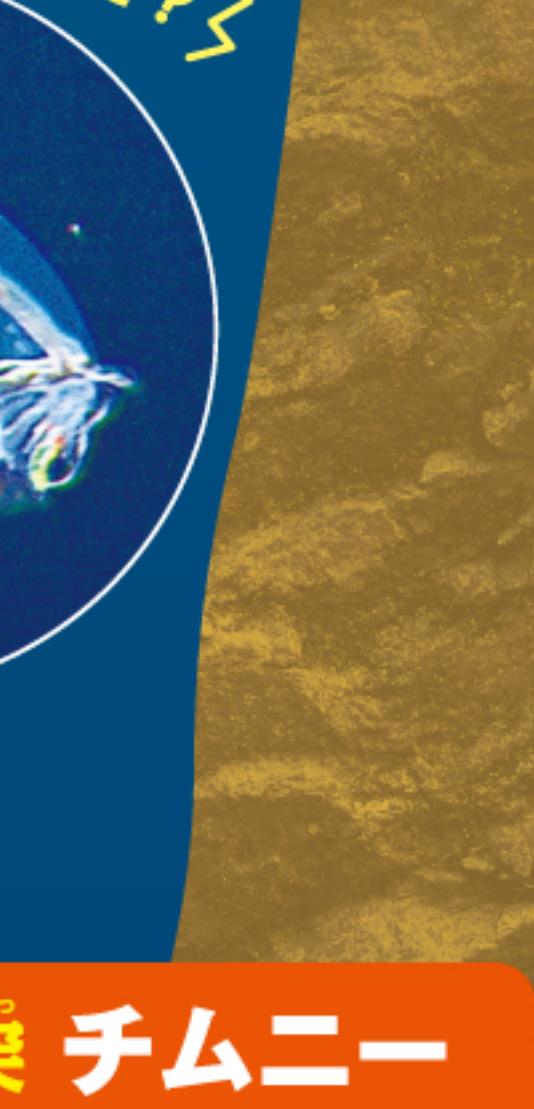


「エサを養殖! 自給自足のエサ

自分でお腹に生えている毛の上
で、エサとなるバクテリアを繁殖
する。熱水が噴き出す海底にす
み、熱水に含まれる硫化水素など
をバクテリアに与えて育てる。

小笠原の深海 奇跡の23分

2012年夏、篠原博士はNHKのクルーとともに潜水艇「トライトン」に乗り、小笠原の漆黒の闇に包まれた水深300m付近、突如、おりおりにしてソディカに巨大な生物が飛びかかった。NHKがはじめて撮影した。ダイオウイカだ。ダイオウイカはその後、23分にわたって潜水艇の近くにとどまり続けた。そのとき、篠原博士は「ついに伝説の魔王を科学の手でとらえた」と興奮を抑えきれない様子で語った。



フタツザオチョウチンアンコウ

長い伸びた青びれの先にちょうちん(发光器)がついている。これを光らせ、ほかの生き物をおびきよせる。獲物が近くになると、大きな口と鋭い歯で丸のみする。(太西洋、全長25cm)

発行所: 読売新聞社 TEL: 03-5843 東京中央区銀座6-17-1
郵便番号: 102-8443
監修: NHK科学技術部、篠原博士、東野圭吾、小畠浩典、篠原良民、並河洋、海洋研究開発機構、篠原克則、Dugald Lindsay

「ちょうちんで獲物をさそう!」



海底にすんでいて、頭部がつるんとした形をしていることから、この名がついた。糸のような触手がある。(太平洋や大西洋、体長1m)

「ソコボウズ」

海底にすんでいて、頭部がつるんとした形をしていることから、この名がついた。糸のような触手がある。(太平洋や大西洋、体長1m)

「ヒガシホウライエン」

鋭いキバのような歯で獲物をがぶり、自分の近くから「サーチライト」のような光を放つ。(北大西洋の寒帯から温帯の海域、全長30cm)

「オオイトヒキイワシ」

長い伸びた青びれや尾びれで、カメラの三脚のように海底に立つ。(世界の深海、全長40cm)

「カイコウオソコエビ」

無人探査機「かいこう」が、世界で最も深いマリナード海溝のチャレンジャー海溝(深さ1万9111m)で大量に発見した。陸上の1000倍の水圧がかかり、温度も冷蔵庫並みの2度という厳しい環境で暮らしている。生物の死骸などを食べているが、植物を炭素にできる能力ももっているらしい。(北大西洋、体長4cm)

「大迫力? 海底に立つ魚」



「ヒガシホウライエン」

鋭いキバのような歯で獲物をがぶり、自分の近くから「サーチライト」のような光を放つ。(北大西洋の寒帯から温帯の海域、全長30cm)

「オオイトヒキイワシ」

長い伸びた青びれや尾びれで、カメラの三脚のように海底に立つ。(世界の深海、全長40cm)

「カイコウオソコエビ」

無人探査機「かいこう」が、世界で最も深いマリナード海溝のチャレンジャー海溝(深さ1万9111m)で大量に発見した。陸上の1000倍の水圧がかかり、温度も冷蔵庫並みの2度という厳しい環境で暮らしている。生物の死骸などを食べているが、植物を炭素にできる能力ももっているらしい。(北大西洋、体長4cm)

「大迫力? 海底に立つ魚」



「ヒガシホウライエン」

鋭いキバのような歯で獲物をがぶり、自分の近くから「サーチライト」のような光を放つ。(北大西洋の寒帯から温帯の海域、全長30cm)

「オオイトヒキイワシ」

長い伸びた青び�や尾び�で、カメラの三脚のように海底に立つ。(世界の深海、全長40cm)

「カイコウオソコエビ」

無人探査機「かいこう」が、世界で最も深いマリナード海溝のチャレンジャー海溝(深さ1万9111m)で大量に発見した。陸上の1000倍の水圧がかかり、温度も冷蔵庫並みの2度という厳しい環境で暮らしている。生物の死骸などを食べているが、植物を炭素にできる能力ももっているらしい。(北大西洋、体長4cm)

「大迫力? 海底に立つ魚」

「ヒガシホウライエン」

鋭いキバのような歯で獲物をがぶり、自分の近くから「サーチライト」のような光